

< あなたの治療について >



呼内-ALI-NSCLC-q3w

今回の治療は、ALI療法という治療法で、アリムタ（ALI）という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間で1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を3週間（21日間）ごとに繰り返し行います。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。また、副作用の予防として治療7日前よりパンピタン末（総合ビタミン）の内服及びメチコパール（ビタミンB12）の筋注を行います。

1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~21日目
	デキサート (吐き気止め)	点滴 約20分		お休み
	アリムタ (抗がん剤) 500mg/m ²	点滴 約10分		

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなつてはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

起こりやすい副作用について（頻度20%以上）

アリムタについて

白血球減少、好中球減少、リンパ球減少、ヘモグロビン減少、赤血球減少 血中尿素増加
悪心、嘔吐、食欲不振 倦怠感

特徴的な副作用について

アリムタにおける

発疹

間質性肺炎

「息切れがする、息苦しくなる；から咳が出る、発熱」などの症状

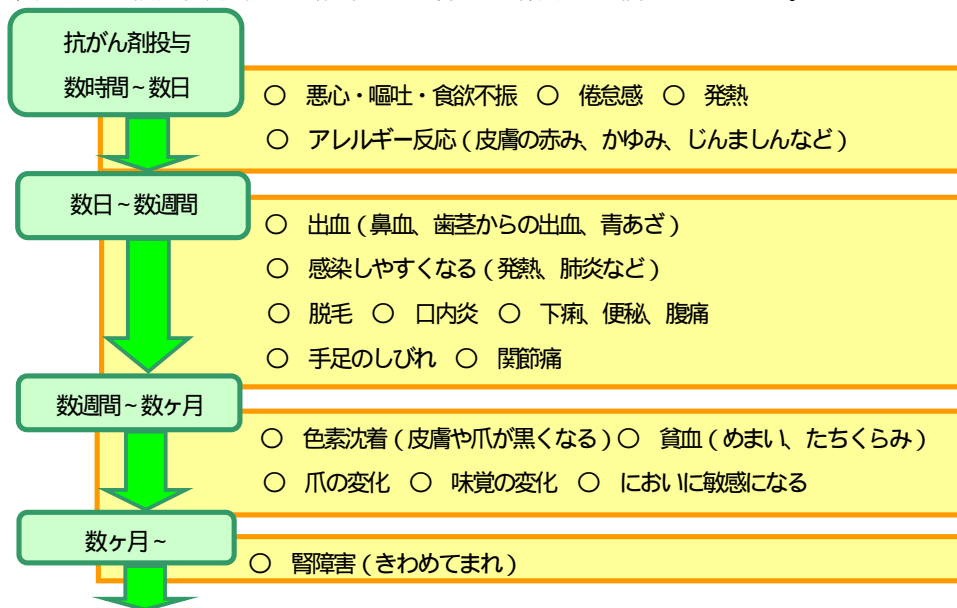
* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



副作用の対策について

吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

薬品毎の副作用について(添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋)
まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【アリムタ】

<骨髄抑制>発熱、寒気がする、のどが痛む；口の中に白い斑点ができる；手足に赤い点(点状出血)または赤いあざ(紫斑)ができる、出血しやすい(歯ぐきの出血・鼻血など)；水のような下痢；口内炎；通常的生活をしていてだるさが続く、ちょっとした階段や坂で動悸や息切れを感じる、顔色が悪いといわれる

<間質性肺炎>息切れがする、息苦しくなる；から咳が出る、発熱

<重度の下痢>発熱、激しい腹痛、下痢、水様便、血便

<脱水>発熱、激しい腹痛、下痢、水様便、血便

<腎不全>顔や手足がむくむ、からだがだるい、尿の量が減る、尿が赤みを帯びる、発熱、発疹、お腹が痛む、吐き気、下痢、節々が痛む、体重が減る

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。